

# (一社) 神奈川県造園業協会 第44回 通常総会開催



発行所  
一般社団法人  
神奈川県造園業協会  
横浜市中区常盤町2-10  
仲光ビル2階〒231-0014  
電話 (045) 662-8793  
662-1767  
FAX (045) 662-4381  
年間購読料 3,240円  
(郵送料を含む)  
ただし会員の購読料は会費に含まれています。



<http://www.kanagawazoen.or.jp>

## 小山会長挨拶

本日は大変ご多用の中、多数の会員の皆様にご臨席賜り、有難うございます。また、平素より協会の事業運営に對しまして、ご支援ご指導を賜りこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、国では明治150周年の記念事業として、大磯町の「滄浪閣周辺の歴史的遺産」の整備を計画し、昨年の11月に明治記念大磯邸園(仮称)の設置が閣議決定され、平成30年度に整備着手し、平成30年10月に

は一部の建物を含む区域の公開を目指しています。そして2019年のラグビーワールドカップ決勝、半世紀ぶりにセーリングの横浜開催の決定や2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて、半世紀ぶりにセーリング



小山会長挨拶

グ競技が江の島で開催されるなど、「みどり豊かな美しい神奈川県」を全国にアピールする絶好の機会と捉えております。

しかしながら、私も造園業界にとりまして実体経済は依然と厳しく、景気回復が実感できるのはまだまだ先のことと思います。このような厳しい経済環境の中で、神奈川県造園業協会、みどりの専門業者として、協会の使命である造園・緑化の健全な発展と都市緑化の整備を、皆様方のご支援ご指導を賜り積極的に進めてまいります。

とりわけ少子高齢化が進展する中で、次世代を担う造園人の養成に積極的に取り組んでいくことが肝要であると存じます。その為に皆様と手を携えて、公園緑地の3部会、総務厚生・情報・教育研修・樹木資材委員会の4委員会の活性化を図り、造園業界で働く人々が明るい未来と希望がもてるように取り組んでまいります。どうぞ今後とも皆様の一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

第四十四回(社)神奈川県造園業協会通常総会が五月二十九日ホテル横浜ガーデンに於いて出席者百四十一名委任状二百二十六名のもと開催されました。

松倉副会長の司会で始まり高橋副会長の開会の言葉、続いて小山会長挨拶後、第四十二回会長表彰が行われ、技能功労者十七名を代表して(株)三橋緑化興業 矢部均様、優秀技能者二十四名を代表して(株)村瀬造園 仲間拓二様、青年優秀技能者五名を代表して(株)井上農園 井上喬之様に記念品と賞状が小山会長より授与されました。



優秀技能者 仲間拓二氏



技能功労者 矢部 均氏



青年優秀技能者 井上喬之氏

これからの益々のご活躍をご期待いたします。

続いて、定款第一七条二の規定により小山会長が議長に選出され、第一号議案平成二十九年度収支決算報告及び監査報告が一括審議され満場一致で承認されました。

次いで、報告事項として平成二十九年度事業報告が一括報告され、次に平成三十年度事業計画及び収支予算について一括報告がされました。

甘利副会長の閉会の言葉で通常総会は終了しました。その後「みどりを創り、育てる」集いが盛大に開催されました。

## 神奈川県造園業協同組合 平成三十年通常総会開催



甘利理事長挨拶

一号議案平成二十九年度事業報告及び会務報告、第二号議案平成二十九年度収支決算報告が一括審議され満場一致で承認されました。

続いて、第三号議案平成三十年度事業計画(案)及び第四号議案平成三十年度予算(案)が一括審議され承認されました。

次いで報告事項横浜傷害火災(株)代表取締役小倉均の保険料不正流用対応状況が

神奈川県造園業協同組合通常総会が五月二十九日、ホテル横浜ガーデンに於いて開催されました。第

長谷川議長のもと、第

説明されました。

続いて、古川理事による閉会挨拶で総会は修了し、その後懇親会が開催され和やかなひとときとなりました。

### 甘利理事長挨拶

組合の皆様には平素より組合の事業運営に對しまして、格別のご支援ご指導を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。また、協会の運営に多大なるご尽力を賜っておりますことを心より感謝申し上げます。

さて、グループ共済制度につきましましては、昭和

六十一年四月に制度が発足され順調に推移しております。平成十一年六月に創設した労災上乗せ等の総合補償制度につきましましては、平成二十三年十月に横浜傷害火災(株)代表取締役小倉均による保険料流用が発覚し、皆様方に多大なご迷惑をおかけしました。現在は、保険料の支払い等、組合の保険業務につきましまして、皆様のご支援をいただき円滑に運営されており、お礼申し上げます。

今後、労働災害に対する関心と対策が強く求められており、共済制度並びに総合補償制度の充実強化に取り組んでまいりますので、皆様方より一層のご支援を宜しく願ひ申し上げます。

(一社)日本造園建設業協会神奈川県支部

第四十二回通常総会開催



山田支部長挨拶

年度収支決算報告及び監査報告が一括審議され、満場一致で承認されました。

続いて、第三号議案役員の選任が行われ、支部規定により役員が選任されました。

五月二十九日第四十二回通常総会がホテル横浜ガーデンで開催されました。

成三十三年度事業計画、平成三十年収支予算が報告され、高橋副支部長の閉会挨拶で通常総会は終了しました。

山田支部長挨拶

佐々木総務委員長の司会で始まり、田口副支部長の開会の言葉、山田支部長挨拶の後、支部規定により山田支部長が議長に選出され、第一号議案平成二十九年度会務報告及び事業報告、第二号議案平成二十九

幹事の皆様、委員会の皆様の一年間、神奈川県支部活動を支えていただき有難う



新任 田口支部長挨拶

ございました。おかげさまで会員数も1社加わり54社となり全国一の会員数を誇ることであります。また、街路樹剪定士も1085名となり、これも全国最多であります。剪定士の普及活動の一環として、第十一回

さて、第33回全国都市緑化よこはまフェアが平成29年3月25日から6月4日まで600万人の人々を集めて開催されました。みなとガーデン地区では、花と緑が街の中に完全に溶け込み、横浜の歴史ある街並みの魅力を一層引き立てておりました。

日造協本部では、造園のデザインコンクールを通じて交流を図り、次の造園人の担い手を育成する目的として、第44回コンクールが開催され、相原高等学校環境緑地課2名の方が入選され3月5日に賞状とトロフィーを持参し、校長先生と30分程度お話をさせていただきました。その中で造園を3年間一生懸命学んでいる生徒達に、このコンクールを今後大いに働かせる必要があるだろうと感じました。

のフォトコンテストを迎え、先程表彰式を行ったところで、第6回より第10回をまとめた写真集を今年度作成しました。

民の皆様にはアピールすることができました。また、全国造園界16都道府県から350名の方がお見えになりました。

会員の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

役員表: 役職名、氏名、会社名



退任役員 山田支部長へ感謝状



退任役員 増田幹事へ感謝状

「第十一回 かながわ街路樹 フォトコンテスト」表彰式開催



大河原審査委員より講評

ガーデンで開催されました。今回で十一回目を数え、一五七点の応募がありました。藤井英二郎千葉大学名誉教授、大河原雅彦元神奈川県新聞写真部長、山田支部長の審査員により最優秀賞・優秀賞各一点、入選五点、佳作十一点、特別賞として神奈川県知事賞、神奈川県議会議長賞、街路樹剪定優秀賞等二十作品が選定され、表彰式では、大河原審査委員より各賞の講評が述べられ、続いて表彰式に移り、山田支部長より、「秋色ビルに映す」最優秀賞を内海英明氏、「只今・横断中」優秀賞を田所正氏に、続き各賞に賞状と



最優秀賞「秋色ビルに映す」

賞金が授与されました。内海氏の作品は、「市役所通りのイチョウ並木、街路路のモチーフです。この作品はビルを覆う大きなガラスに黄葉の並木が映り込んでいる構図が新鮮で、過不足なくまとめられています。とりわけ、画面左の並木と映り込んでいる並木の配分の比率が良い。また真っ赤なフードコートの通行人がアクセントになっていきます。斜め横から降り注ぐ日差しを利用して、きれいに映り込むタイミングを狙ったのでしよう。通りすがりに目にしたものでは無く、存在を知りつつ、十分に計算して捉えた作品だともいえます。」と選評されました。



最優秀賞を受賞した内海英明氏

今年も、国土交通省関東地方整備局横浜並びに相武国道事務所、神奈川県、横浜市・川崎市・神奈川県、NHK横浜放送局の後援を得て「第十一回かながわ街路樹フォトコンテスト」の作品を募集しておりますので多数の応募をお待ちしております。

# 「かながわのみどりを創り、育てる」集い開催

第四十四回神奈川県造園業協会通常総会・第四十二回日本造園建設業協会神奈川県支部通常総会終了後、「かながわのみどりを創り、育てる」集いが開催されました。

開会に先立ち、神奈川県造園業協会小山会長より挨拶、続いて役員改選により、日本造園建設業協会神奈川県支部長に新任されました田口支部長より、次いで山田相談役より挨拶が行われました。

来賓としてご臨席いただいた第百十一代桐生秀昭神奈川県議会議長より、「皆様には本来にみどりを通して環境行政にご尽力いただき



桐生神奈川県議会議長挨拶

いてお礼を申し上げます。感謝と敬意を表したいと思っております。我々議会も皆様と同様にしっかりとみどり豊かな地域づくりを目指していきたいと思っております。

今後、皆様方には経営の中で様々な難しい点や多々課題があると思いますが、今日、副知事以下行政の方も多くみえられておりますので、官と民と我々議会が中間に入って、このへんの課題をクリアできるかこんな思いがいつばいでありま

を減らすことなく、また、街路樹剪定土を元請条件との要望についても、元請条件とする事務所長も増えております。皆様方の技術の信頼度に答えるためにも、発注者側がしっかりと技術の研鑽を引き継いで県民に還元してまいりたいと思っております。

さらに、2019年ラグビーワールドカップの決勝戦、次の年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、その中で神奈川県が中心となってやらなくてはならないセーリング競技会場の江の島では、先日、日造協、神造協の方々



浅羽神奈川県副知事挨拶

会の皆様のご健勝をご祈念しましてご挨拶とさせていただきます。

次いで、神奈川県副知事浅羽義里様より、「街路樹剪定土活用地区では、28年度には30か所、29年度には46か所と増えさせてい

事業大磯邸園(仮称)の関係では、「滄浪園」を中心とした緑地を核として作っていく。それを我々は国だけでなく、県と大磯町と連携しながら、今年の10月のイベントに向けてやっていきたいですし、整備についてもしっかりとやってい

いて、緑をどうやって守り、おもてなしをどうやっていくのか意見交換をさせていただきます。我々発注者、受注者という枠を超えて同じ技術屋として連携を取って、よりよいものを残して行くことが何よりも重要だと思っております。

そこで、今後も引き続きご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次いで、神奈川県議会自民党みどりの会出席者の紹介後、みどりの会を代表して持田文男会長より、「我々一丸となって明治150周年を記念して政界の奥座敷と言われた大磯邸園を新たな



持田神奈川県議会自民党みどりの会会長挨拶

霧囲気の中で、後世に伝えていくことが大事なことであり、皆様方の力をお願いしたいと思います。

なによりも2020年オリンピック・パラリンピック開催がやってみない2020年に正しい緑というものはできてまいりません。有効で有意義な緑を作っていくために皆様方のお力をお貸しいただきますようお願い申し上げます。

そういつた環境を作っていくことを、我々は大事にしております。そういったことが出来るような神奈川県のが政力をしっかりと全方位の

## 一般社団法人神奈川県造園業協会 労働保険事務組合総会開催



長谷川副会長挨拶

二十九年事業報告、次に第二号議案平成二十九年度決算報告及び監査報告が審議され、満場一致で承認されました。

続いて、報告事項平成三十年度事業計画、次収支予算について報告がされま

(社)神奈川県造園業協会労働保険事務組合総会が六月二十五日ホテル横浜ガーデンに於いて出席者二十名委任状二十九通のもと開催されました。

中島事務局長の司会で始まり井上副会長が開会の言葉を述べ、長谷川副会長が挨拶されました。

以上で本日予定された議事の審議及び報告事項が終了し、総会は滞りなく閉会しました。

総会終了後、懇親会が開かれ、和やかなひとときとなりました。

このところ労災事故が多発しております。無事故で安心な職場でありますよう、ご協力宜しくお願い致します。

# 「みどり行政に関する要望書」 六項目を提出

神奈川県造園業協会と日本造園建設業協会神奈川県支部共同で、七月十七日に自由民主党神奈川県支部連合会・自由民主党神奈川県議会議員団へ、新規要望二項目と継続要望四項目の六項目について要望した。



要望書の提出

要望事項として、新規要望①江の島セーリング競技会場周辺地域の植栽帯等再整備、緑地の保全、緑化を積極的に推進するための予算確保②「明治記念大磯邸園(仮称)」整備における神奈川県としての積極的な取り組み、継続要望①都市公園の再整備、緑地の保全、緑化の積極的な推進を実現

するため緑化関連公共事業予算の確保・増加と受注機会の確保②造園に関わる専門事業者に発注を、また、

備及び維持工事は分離し、指定建設業種である造園専門事業者に発注を、また、

造園技能士等各種資格所有者の在籍している業者への発注③一般社団法人日本造園建設業協会認定の街路樹剪定士の積極的活用と街路樹剪定士を下請けではなく元請けの条件として仕様書の明記④校庭及び園庭の芝生化の推進並びにグラウンド基盤の整備を図るための助成措置と芝生化工事及び維持管理工事の造園専門業者への発注について、造園業界の大変厳しい現状をふまえて要望事項の実現に向けて強く申し入れた。

## 病害虫防除講習会開催

協会と神奈川県農業技術センター病害虫防除部・神奈川県植木連合会と共催で平成三十年第一回病害虫防除関係者講習会が七月二十日「万国橋センター」において実施され総勢一〇三名(造園業関係係四名・市町村・植木連・その他団体五九名)が参加、二時間半に亘り「農薬取締法と適正使用」「農薬を安全に使うための知識と使い方」の

病害虫防除講習会

講習が行われました。この講習会は農薬散布時の人に対する健康や周辺住民・環境への安全性確保の大切さについて発注する側の行政と受注する造園関係事業所が共通認識を共有し、円滑な病害虫防除を図ることを目的とした重要な講習会で、講習会終了後出席者には「修了証」が手渡されました。第2回目は平成三十一年二月六日神奈川県農業技術センターに於いて実施する計画で現



病害虫防除講習会 松倉副会長挨拶

## 公園緑地部会活動報告

### (一) 伐木等の業務特別教育講習会を開催

技術委員会委員長 北村 義輝

第一回目の講習会は、四月十七・十八日の二日間、第二回目は七月三十・三十一日の二日間、



伐木等の業務特別教育講習会の様子



実技講習会の様子

IHI技術教習所神奈川県支部において、一回目は三十三名、二回目は三十名の参加を得て行われました。初日には座学、二日目には実技の講習会スケジュールで開催され、二日間を通して集中した講習会となりました。

### (二) 社かながわ土地建物保全協会安全講習会

公園緑地部会長 原田 満久

七月二十日午後より、かながわ土地建物保全協会からの講師派遣依頼を受けて、監督員の知識と心掛け、植物管理、安全管理の三テーマについて講習会を開催。初めに、監督員の知識と心掛けについて講義がなされ、次いで、植物管理では、植物管理の考え方、植物管理の方法、病害虫防



安全講習会の様子



ワークショップの様子



ワークショップに係る各班発表の様子

除等における農薬使用(薬剤防除)について講義がなされ、安全管理では、一般事項、事前調査・情報収集、お客様への周知、工事監理

について講義がなされ、その後ワークショップを各班に分かれて行い、各班から発表が行われ、質疑応答も行われるなど多数の保全協

会職員の参加を得て集中した講習会となりました。なお、次回は実技の講習会となる予定です。

## Bridal Banquet Stay Restaurant

### ホテル横浜ガーデン

〒231-0023 横浜市中区山下町254番地

お問合せ 045-641-1311

http://www.yokohamagarden.jp



### ● 会員名簿の変更 ● (平成29年度名簿)

#### 新入会員

- 川崎北支部  
南アーツ庭園  
〒215-0003 川崎市麻生区高石2-43-9  
代表者 池田元之  
TEL044-954-1482 FAX044-299-6420
- 横須賀支部  
庭仕事そなれ木  
〒240-0113 三浦郡葉山町長柄274  
代表者 久保田満  
TEL046-875-6128 FAX046-875-6128
- 湘南東支部  
株庭師生樹  
〒251-0003 藤沢市柄沢256-4  
代表者 生田啓三  
TEL0466-28-5225 FAX0466-28-5225
- 湘南西支部  
富士箱根緑化  
〒250-0401 足柄下郡箱根町宮城野233  
代表者 小林欣也  
TEL0460-82-1128 FAX0460-82-2556
- 諸星緑化産業  
〒259-1322 秦野市渋沢2229  
代表者 諸星恵介  
TEL0463-88-5629 FAX0463-87-5591
- 県央支部  
UEKIYA  
〒252-1137 綾瀬市寺尾台4-2-10-2  
代表者 若井利允  
TEL0467-67-7234 FAX0467-67-9612

#### 社名変更

- 鶴見支部  
俊庭園 (会員名簿P.23)  
社名 (旧) 俊庭園 → (新) 俊庭園株
- 湘南西支部  
株足柄グリーンサービス (会員名簿P.58)  
社名 (旧) 株足柄グリーンサービス → (新) 株アグサ

#### 社名・住所変更

- 湘南西支部  
株阿曾石材  
社名 (旧) 株阿曾石材 → (新) 株アースロック  
新住所 〒259-1122 伊勢原市小稲葉790  
TEL0463-92-1660 FAX0463-92-1665

#### 住所変更

- 神奈川支部  
南高橋緑化建設 (会員名簿P.31)  
新住所 〒221-0865 横浜市神奈川区片倉2-808-23

#### FAX番号変更

- 相模原支部  
株植雅庭園 (会員名簿P.65)  
新FAX番号 042-712-1153

#### 代表者変更

- 藤沢支部  
株青木造園土木 (会員名簿P.59)  
代表者 青木英志 → 青木一士

#### 代表者・住所変更

- 神奈川支部  
株環境造園 (会員名簿P.31)  
代表者 今泉健寿 → 伊藤重紀  
新住所 〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町1119-19  
新TEL番号 045-459-9955  
新FAX番号 045-459-9977

## 事務局情報

(月間行事一覧) ● 諸会議その他 ●

月日	概要
9/21 (金) or 27 (木)	副知事・県土整備局長・環境農政局長 H31予算要望ヒアリング
9/25 (火)	校庭芝生化プロジェクトチーム会議 13:00 ~ 公園緑地部会 15:00 ~
9/28 (金)	理事・支部長・各部長委員長会議 15:00 ~
10/11 (木) 12 (金)	関東甲信東協交流会 (山梨県)
10/13 (土)	造園技能士コース開校式 9:00 ~
10/16 (火) 17 (水)	日造協神奈川支部主催 街路樹剪定土認定研修会
10/18 (木) 19 (金)	出先土木事務所 H31予算要望ヒアリング
10/20 (土)	第2回造園技能士コース 9:00 ~
10/21 (日)	第39回よこはま技能まつり
10/25 (木)	神造協第18回親睦ゴルフ大会 (レイクウッドゴルフクラブ)
10/27 (土)	第3回造園技能士コース 9:00 ~
10月未定	全国造園フェスティバル2018 明治150年記念大磯邸園
11/15 (水)	「かながわのみどりを創り育てる」 講演会・集い・



技能検定 1級課題モデル



技能検定 2級課題モデル



技能検定 1級実技講習会



技能検定 2級実技講習会



技能検定判断 (要素) 模擬テスト



技能検定 1級実技試験



技能検定 2級実技試験

# 平成三十年度 造園技能士実技講習会・技能検定実技試験・学科講習会開催

## 実技講習会

七月二十一日から二十四日迄の4日間横浜農協きた地区営農経済センターに於いて開催されました。一級三十九名、二級四十九名が受講し、十名の

指導員の熱心な指導を受け猛暑の中、大汗をかきながら一生懸命取り組んでいました。また、要素模擬試験では試験結果に一喜一憂し、要素の解説に真剣に耳と目を傾けていました。

さらに、今年も二十六日に追加講習を開き、一級二十二名、二級八名が受講されました。今年も熱中症対策として途中十五分の休憩を二回とり、また、受講者に塩あめを配布しました。

## 実技検定試験

七月二十八日から三十日の三日間実技検定試験が行われました。今年の検定受験者は、一級四十九名、二級八十九名、三級五十二名計百九十名が

受験されました。初日は台風十二号の影響による大雨と悪コンディションとなりましたが、二日目からは検定員による事前の作業場へのシート掛けにより、良いコンディションで実技試験が行われ、検

協会の一大事業である実技講習会、技能検定実技試験、学科講習会も無事終了し、関係者の皆様のご尽力とご苦労に感謝申し上げます。また、実技講習会での小島

八月七日かながわ労働プラザに於いて一・二級造園技能士学科講習会を教育研修委員四人の講師により午前・午後とわたり教本造園施工必携とサブテキストを基に熱心に講義が行われ一級十四名、二級二十九名計

定員・補佐員の見守る中、これまでの研鑽と日頃培った技を發揮すべく、一心不乱に作業に取り組んでいました。

## 一・二級造園技能士 学科講習会を開催



学科講習会

四十三名の受講生が真剣にメモを取っていました。

情報委員会からのお知らせ

# 協会メーリングリストを知っていますか？

2015年9月より協会ではgoogle groupsを使用したメーリングリストを立ち上げています。現在、会員72社が登録しており、将来的に会報の電子化や講習会の連絡などに活用していきます。また各支部でのイベント案内や報告等に使って頂きたいと考えています。会員の皆様のご参加をお待ちしています。



### ■メーリングリストとは

グループに登録しているメンバーに対して一斉にメールを送信することが出来ます。登録されていないメールアドレスからの投稿は出来ませんので受け取るのは協会会員ということになります。メーリングリストについては <http://www.kt.rim.or.jp/~atsato/beginer/special1/> にわかりやすい説明があります。

### ■登録するには

[jouhou@kanagawazoen.or.jp](mailto:jouhou@kanagawazoen.or.jp) に会社名、登録したいメールアドレスを送って下さい。事務局で登録手続きを行います。

### ■投稿するには

[kanagawazoen@googlegroups.com](mailto:kanagawazoen@googlegroups.com) にメールを送信して下さい。登録したメールアドレスからしか投稿できません。

### ■退会するには

登録したアドレスより [kanagawazoen+unsubscribe@googlegroups.com](mailto:kanagawazoen+unsubscribe@googlegroups.com) にメールを送信して下さい。

### ■問い合わせ

「以前に登録お願いしたけどメールが来ない」「入退会がうまくいかないのだけど」等ありましたら協会事務局または情報委員会 [jouhou@kanagawazoen.or.jp](mailto:jouhou@kanagawazoen.or.jp) に連絡ください。(情報委員会委員長 犬山清史)



杉本健一支部長の挨拶

2月17日(土) 鶴見支部では、鶴見区北寺尾公民館にて、「普通救命講習会」を受講しました。定例行事として年に一度様々な研修会を行っている中、今回は職場、作業現場及び日々の生活の中で「救命処置」が必要な場に居合わせた時に、119番通報をし、救急隊が到着するまでの間、適切に対応出来るよう学びました。出席者17人、鶴見消防署寺尾出張所、所長 月岡伸介氏による指導のもと、当協会員2人を含む鶴見消防団八分団員4人が担当しました。

鶴見支部  
普通救命講習会  
情報委員  
前田陽介



消防団員による心肺蘇生方法の説明

まずは、テキストをもとに心肺停止してしまった人への胸骨圧迫と、人工呼吸からなる心肺蘇生の重要性、並びに心停止が起こる原因として、心臓が細かく震えてしまう心室細動を電気ショックにより、取り除くAED使用の重要性を学びました。

次に、実際の現場を想定、訓練用の人形とAEDを使用し、胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返し行う訓練、AEDを正しく使用する訓練を行いました。中でも胸骨圧迫は体力を消耗する動作で、実際AEDもなく、人

工呼吸も不可能な場合、救急隊が到着し引継ぐまで約9分間(全国平均)、1分間に100から120回のテンポで行わなければならない。それには正しい姿勢をマスターし、体力消耗を最小限にすることが重要で、みな姿勢を意識し、繰り返し練習をしていました。

その後、喉に物を詰まらせてしまった時の気道異物の除去方法や、症状の悪化を防ぐ体位、止血方法などを学び、講習を終えました。

は命を救い、後に後遺症を残さない為にも重要です。また、処置方法は、より良い方法へと日々進化している為、基本を忘れず、新たな知識、方法を取り入れていく為にも、定期的に講習会を行う事も必要と感じました。



協力し、胸骨圧迫とAED装着を同時に行う



胸骨圧迫の練習



今回の指導者、右から月岡所長、瀧川副分団長、前田班長、上原班長、鶴見団員



講習会を終え全員集合

「学習会の目的と成果」  
日々雑草への対処に悩まされる事の多い昨今、人力による抜根除草が基本ではありますが、カヤを初め木本化するヨモギ等、宿根の状況になり折角の植栽帯も無残な状況になっていく様子が見受けられます。抜根除草だけでは、追いつかない実情があり、まして、薬剤の使用に手厳しい風潮も手伝い、使用に踏みきれないのが実態です。私どもとしても使用せずに済めばこの上ないのですが、高齢化・労働力不足の現状



7月20日(金) 藤沢支部では、藤沢市御所見公民館において、株式会社グリーンテック松本友博氏を講師にお迎えし、ゴルフ場における芝生管理業務(農薬を使用した芝生管理について)の学習会を13名の参加を得て開催いたしました。

藤沢支部  
ゴルフ場における芝生管理業務についての学習会  
支部長 吉川 誠  
副支部長 松本 学

と、美観を維持する目的との狭間で、除草剤、殺菌剤、殺虫剤等の使用について、学習会を企画いたしました。  
ゴルフ場の芝生管理における、害虫駆除、雑草防除等のノウハウ、薬剤の使用についてお話しを頂戴し、今日の除草剤の種類、効用について質疑応答が成され、今後に向けた活用の一助になった学習会となりました。



緑支部

石の運搬方法等の研修会

青年部部长 荒井重博

緑支部青年部では5月13日(日)に毎年恒例の研修会を行いました。参加者は

13名、研修内容は「チェーンブロック・三又・そり等を使った石の運搬方法その他」ということで、近年の建設機械の発達により失われつつある技術を継承する目的で行われました。講師は緑支部支部長である今西園 今西稔氏にお願いし、研修会場・資材等も全て用意して頂き、今西氏の知識と技術を惜しみなく講習していただきまし

た。まずは、約3t程度の石の運搬から行いました。三又にチェーンブロックをセットする基本的なことから始まり、そりの上に石を載



そり・枕木を使った石の移動の様子

せ滑車を用いて3本引きワイヤーにて、そり・枕木を用いてのチルホールを使った移動作業から始めました。3t程度だと、3本引きワイヤーなら十分牽引できました。続いて2t程度の石を、そり・コロ(単管)を使っ



そり・コロ(単管)を使った移動の様子



セリ矢を使つての石割りの様子

ての移動で、こちらは1本ワイヤーにて途中クリップや滑車を駆使して曲がった導線での引上げ作業を行いました。こちらも楽に移動することが出来ました。最近、ほとんど機械施工に頼ってしまっています。住宅事情(機械が入らない現場や騒音等)を考えると、色々な道具や機材を使つての昔ながらの工法も有効な手段など、技術の再確認も含めて大変勉強になりました。その他にも、ハンマー・セリ矢を用いて石の割り方の講習も行つたり、午後には支部との合同講習会として、榎の枝接ぎの講習も行いました。この講習は2月に行つた緑支部の浜北視察研修会での、榎・黒松の枝接ぎの視察研修会の復習という意味で、地元に戻つて実践にて技術や知識を確実に身につける目的として行いました。以上、今回の研修会は1日で内容の濃い講習となりましたが、次回の研修内容も色々な案が出ていて、今後も継続して開催して行きたいと思ひます。



移動した石の前で記念撮影

が、近年の住宅事情(機械が入らない現場や騒音等)を考えると、色々な道具や機材を使つての昔ながらの工法も有効な手段など、技術の再確認も含めて大変勉強になりました。その他にも、ハンマー・セリ矢を用いて石の割り方の講習も行つたり、午後には支部との合同講習会として、榎の枝接ぎの講習も行いました。この講習は2月に行つた緑支部の浜北視察研修会での、榎・黒松の枝接ぎの視察研修会の復習という意味で、地元に戻つて実践にて技術や知識を確実に身につける目的として行いました。以上、今回の研修会は1日で内容の濃い講習となりましたが、次回の研修内容も色々な案が出ていて、今後も継続して開催して行きたいと思ひます。

緑支部

枝接ぎ研修会

青年部 岩本貴成

緑支部では5月13日に今西園圃場にて、今西稔氏が講師をして下さり、接ぎ木の講習を行いました。接ぎ木の講習は2月に行われた浜北視察研修の際に

学んだ技術を実践してみようというところで企画してくださいました。視察研修では黒松と榎接ぎ木を見学してきましたが、今回の講習は榎の接ぎ木講習です。まず今西さんご自身が実践し研究されたことについての話しを伺いながらの実施指導をしていただきました。接ぎ穂はどのような穂を使ったか・接ぐ時期は何時までがよいか・使用した道具や扱い方などを伺いました。2月の視察研修では切り出しを

てくれました。鑿も幾種類も試されたとのこと。また、どんどんやってみると言つて伐採予定の木を使つて、私達も手ほどきを受けながら練習をさせていただきました。鑿入れの深さや角度で穂木の当たり方や向きが変わってくるので、接ぎ木の作業の為といえ普段は木を傷つけないように考えるので、最初は鑿の入れ方が遠慮がちになつてしまします。一人二人順次、手を出し少しずつ加減が解つてくるとだんだんと遠慮がなくなり、もつと鑿を立てたほうがとか深く入れたほうがとか、少し木には申し訳ないようでしたが、しっかりと練習できたかと思ひます。一通り皆が鑿入れの練習が終了したら次は本番です。



榎のさし穂の講習



今西氏による講習の様子

の視察研修では切り出しを



幹への接ぎ穂した様子



癒合剤の塗布

今度は圃場内の売り物になる榎に各自順次鑿を入れて、穂木を挿し雨水が入らないように梱包用のビニールテープで幹に穂木を固定しホチキスで止める。本番は私が最初にやらせていただくことになったのですが、売り物の榎ということ

で少し緊張してしまひ、また、遠慮がちに鑿が入つてしまひましたが、何とか形にはなつたかなと思ひます。本番の榎を順次作業をしていると雨が降つてきてしまひ全員はできませんでした。午前中の青年部の石関連の講習に続き午後の接ぎ木の講習と充実した講習会でした。また、今回教つたことは技術面もあります。人が教つたことを実践し模索し自分に合った形で、さらに向上させることはとても大事だと感じました。

■石数寄者との出会いの旅 第七話

「何故 日本庭園は石なのか」

― 岩から磐(いわ) そして石へ ― (三)

緑支部教育研修委員 (有)庭工荒川 荒川 昭男



前回まで

石が日本庭園作庭にあたって、欠かすことの出来ない存在となった歴史的背景は、石や岩を磐座・磐境として登場させた、古事記や日本書紀の更に奥にあるものと推考し、同時に古代人と、現代人との石への思いの不変性をも探る。更に、人と石との最初の交わりである石器や、縄文人が残した土器土偶、それ等と日本庭園の持つ精神性、具象性との結びつきを考察した。

一. さんまるミュージアム

青森県の三内丸山遺跡で、直径1メートルという信じられない太さの栗丸太が、6本出土したとの発表が1994年にありました。発表の2年前より始まった遺跡の発掘で、それ

までの縄文の暗いイメージが、ガラリと変わったと言われています。約5000年前の縄文前期中頃から、約4000年前の縄文中期の終わり頃の遺跡とのことです。東京

ドーム7個分に相当する、38ヘクタールという広大な土地で、平均5000人程度の人々が、1500年間生活を含んでいたと推測されています。現在までの発掘は、全体の十数パーセント程度しか進んでいません。しかし出土品は、ダンボール箱4万箱以上に達しているとのこと。

縄文当時、日本列島の西では、照葉樹林が発達し多種多様な木の実が採取されていました。一方、列島の東ではブナ科のクリ、ナラ、クヌギその他にトチ、クルミ等の落葉樹林が繁殖し、大量の木の実が採取されていたことが立証されています。取分け栗は、品質改良を行った形跡がDNAで解明されています。三内丸山のような大集落が形成され人口増加が可能になった大きな要因が、その大量の収穫にあつたと多くの考古学者は考えられています。

遺跡内の「縄文時遊館」内「さんまるミュージアム」には、様々な出土品が展示されています。砂岩・泥岩・頁岩等の石材や、動物の牙・貝・サメの骨等でデザインされた彫刻の数々の装身具。なかでも三内丸山より直線で、500キロ以上も離れた翡翠の唯一の産地、新潟県姫川から供給された重量感のある大珠には、生真面目目の表現が相応しい、紐を通す丁寧な穿孔が開けられていました。両手を擦り合わせる採籬や、弓を使った弓錐の穿孔に用いられた錐の石材は、珪化木

信州の和田峠や、北海道の白滝等から供給された黒曜石製の、槍や鏃をはじめとした多種多様な石器類。その石器製作に必要な現代のノミや石頭に該当する敲石。出土した当時、話題になったパンツをはいた板偶等の土偶や岩偶。ヒバの繊維を網代編みし

た17センチ程のポシエット、中にクルミの殻がひとつ入っていたそうです。このポシエットと木の実を粉にし、そこに鹿や猪の肉を混ぜハンバーグ状にして焼いてつくったクッキーの出土が、縄文人気を更にエスカレートした記憶があります。呪術や祭祀と関係がある石棒も展示されています。男性器を表現したと言われている石棒の見学は、三内丸山を訪ねた目的のひとつでした。信州や甲州そして武蔵野段丘等で、石棒が数多く出土しています。それらとの違いや共通点を確認したいと以前から考えていました。石棒の石質は硬質砂岩や輝石安山岩のようです。縄文前期特有の30センチから40センチ程の短い石棒ですが、小形ながら祭祀に相応しい品格が漂っています。



復元するのに調達した巨木を地元の人はシベリア産と言う三内丸山



翡翠に相応しい堂々とした穿孔 胸に飾った長の満足げな顔が浮かぶ 三内丸山



赤味を帯びたものを花十勝と呼ぶ 北海道白滝産の黒曜石の石槍 三内丸山



ポシエットを見た瞬間 5千年前という時が一瞬に消え 持主を想像した 三内丸山

縄文の世界で、丁寧な仕事をやり遂げた職人達が

静かな館内の何処かに居るようです。縄文の出土品を前にすると、気持ちが高揚するためか他の考古館でも同じように、縄文人を歴史的人物として意識することがあります。三内丸山の縄文の世界では、現代と同じ専門職ごとの分業がしっかりと確立されていたと強く感じました。薄暗い館内から秋晴れの外へ出たときに、妙なことが脳裏に浮かんできました。1500年前の鳥羽、伏見から始まった戊辰戦争のことで、鳥羽、伏見で徳川15代将軍慶喜を敗走させ、江戸上野での彰義隊との半日戦争に勝利し、会津などの奥羽越列藩同盟を降伏させた、勝てば官軍“が残した台詞についてです。「白河以北一山百文」。白河というのは福島県の白河のことですが、それより北の地を、価値のない荒地と見下したのと言われています。官軍の主力は薩摩、佐賀鍋島、長州、因州等の西国諸藩でした。彰義隊が官軍と激しく闘った上野寛永寺に、私は



男根のリアルさを控えた石棒に今の東北人気質の原点があるようだ 三内丸山

ありましたが「さんまるミュージアム」のそれは濃厚でした。

庭職人として出入りしていません。そのため戊辰戦争に關しては、以前から偏った見方をしてしまう傾向がありました。ですから「山百文」の台詞も頭の中にこびりついていたようです。旧式銃と槍刀の彰義隊や東北武士とくらへ官軍は西洋の最新式の銃を持ち、外国人教官による西洋式軍事訓練を受けていました。その官軍から見れば東北は、文明とは程遠い辺境に思えたのでしょうか。「森と文明の物語」の著者で、環境考古学を確立した安田喜憲教授はこのようなことを述べています。

「……国家、文学、金属器がなければ文明と呼べない」といふ原理に固執するならば、縄文文化はいつまで経っても原始的。しかし、縄文時代の社会には別の驚くべき原理、従来の文明に欠けている原理が備わっている。すなわち自然への敬意と自然との共存である。縄文時代の社会で一万年以上かけて育まれてきた、自然の周期にのっとって生き、社会の平等を維持するという原理……」縄文から明治維新へ、時空を越えて一挙にスライドした私の脳裏を、徳川・官軍・彰義隊・会津白虎隊等と共に縄文人が何故か、時代錯誤を無視して自然な形で通りすぎていきました。

## 二. 黒曜石街道

旧石器・新石器時代の人々は、歴史の流れのなかで石の特性を学び、用途に応じた石器材料を選んで



古代の人々はこの原石を手に入れるために代々長旅を繰り返した 尖石考古館

たとわれています。例えば三内丸山で出土した、直径が1メートルもあるような栗の大木を切り倒すには、粘りのある蛇紋岩の石斧を使っていたこと。その切り倒した木の加工には、刃を付けた硬質砂岩を用いた南関東と



黒曜石を得るため持ち帰るため各地から和田峠に集まりそして散った

か、凝灰岩を使用した兵庫の遺跡と地域性があること。植物の刈り取りには、粘板岩や頁岩、鏡い刃を必要とするナイフや槍、弓矢の石鏃、それと石匙等にはチャート・サヌカイト・黒曜石の原石が加工されました。チャートは海洋プレート移動によって、日本列島の形成に影響を与えた付加体に含まれています。ですから様々な地塊がモザイク状に重なる日本の各地で頻繁に見られます。ガラス質安山岩のサヌカイトは、地域によって「カンカン石」と呼ばれています。叩くと金属性の音がします。主に西日本で利用された石材です。



右三つが和田峠の黒曜石で造られた端正な石槍 左は凝灰岩と頁岩 伊那創造館

産地としては、大阪と奈良の泉境を跨ぐ二上山、香川の五色台や金山、佐賀の多久や老松山等で採掘されたものが、西日本各地で利用されています。黒曜石は石器材料の中で

特に貴重な石材として扱われていたようです。現在では北海道から九州まで70以上の産地が、化学組成で判別が可能とのこと。交換や分配の流通範囲も

黒曜石は、4万年も前から採掘されてきました。関東一円の他、200キロ以上も離れた地域での出土例もあります。不純物を含んだ質の劣る、栃木の高原山や箱根の黒曜石にくらべ、和田峠の黒曜石は良質でした。その和田峠は諏訪湖の近くにあり、和信州の、諏訪近郊に何度か通って考えることがあります。中部・東北・関東から黒曜石を求めて、古代人が行き来したことは分かっています。その古代人が歩いた「みち」が後に街道となり、現代の幹線道路となったのではないかと考えました。



英国ソールズベリーのストーンサークル 紀元前2950年から立てられた石に立派なホツ



フランス・カルナックの列石 石の天地も顔も構うことなく唯唯立て続けられた

この時代世界で生活する人々は、ネットワークが存在したかのように、自然の岩石にとりつかれたようです。

## 三. 石と向きあった縄文人

1万5千年前、長く続いた無土器時代と言われている旧石器時代から、日本列島は新石器時代の縄文へと移行しました。その縄文時代の早期にあたる8千年前頃から、後期と区分されている4千年前頃にかけて、列島から遠く離れたヨーロッパでは、巨石に興味が抱く各国の人達が

松本街道・ヒスイの道と呼ばれる糸魚川街道が日本海に向かって走ります。西から南にかけては、飛騨街道・野麦街道・中山道(東山道)・天竜川を挟んで三州街道・秋葉街道が、浜名湖の浜北遺跡等に向かって走りま

高かった証と私は考えています。古代人の黒曜石へのこだわりを強く感じます。そして和信州は縄文人達の情報交換が行われる、大切な場所であったとも考えています。石を組むときに、緑色片岩系の庭石を近郊の三波に求めず、彩が深い遠方の伊予や阿波の青石にこだわって組んでいた庭仕事を思い出します。

日本列島の縄文人達も中期から後期にかけて、東日本を中心に規模の違いはありますが、配石・集石の造形に力を注いでいたよう

その石の造形には、山梨県の金生、青森県の小牧野、秋田県の大湯、長野県の戌立、阿久井戸尻向原、静岡県の千居、上白岩、神奈川県の下谷戸等の各遺跡があります。他にもまだ幾つかあるようです。

特に印象に残っているのは小牧野と大湯です。小牧野遺跡は、陸奥湾や八甲田の山並を一望に出来る高台にあり、今が旬の栗林に囲まれていました。私が訪れたときは人の気配はまったくなく、足元の草が地面を覆い隠し、怖いぐらいの静寂が遺跡を支配していました。遺跡入口の「最近熊が出たので注意してください」との張紙がますます気になる、周囲をうかがいながらの見学でした。

各小数の集団が、統率力のあるリーダーのもとで、協同してつくりあげた環状列石であろうと言われていいます。一段と大きな立石は、部族長クラスの墓ではないかとのことです。

荒川で数百年洗われ角が取れ、肌がつるつるになった景石としては不向きな伏石の中に、日本庭園的に表現すれば、三尊石の立石が特に印象に残り、熊の出没に怯えながらシャツ



アイランドの7mの立石 牧場に許可無く進入し後方に写る牛の集団に迫られる



巨大神殿はエジプト等にあるが巨石神殿はマルタ島にしかない 石は石灰岩



アイランドのドルメン 韓国に同じものがある日本の九州にもあるが小形



縄文時代の石棒と同じ男根のアイランド版と見た王位継承を誓う石とのこと



青森の小牧野遺跡 熊の出没に怯えながらの一コマ立石だけ石質の違う意味は

ターを切りました。印象に残ったもうひとつの遺跡大湯は、4千年前の縄文後期に造られた環状列石です。外周が52メートルの万座と、44メートルの野中の2つの環状列石から成り立っており、共に2重の列石になっています。

石は全て濡れると美しい緑色の石英閃緑岩で、他の石質は一切ありません。石の平均重量は30キロで、最も重い200キロの石も含めて7200石あるとのことです。大湯から7〜8km離れた安久谷川上流の、諸助山から運ばれた六方石と同じ柱状節理を特徴にもつ石です。

凛とした雰囲気を感じさせる立石を見ると、石の形や彩に対する縄文人の強いこだわりを認めざるをえません。同時に石の心を読む巧者の存在を強く感じました。

現代において石を組むと きに、山、川、沢、海石を共に組むことを戒めるおしえは、縄文の時代から既に慣習としてあつたと勝手に解釈してしまいました。

各遺跡に対して考古学者の見解は様々なものがあります。夏至に太陽が沈む方向、冬至に昇る方向を指しているとか、日時計として組まれているとか、哲学者梅原猛氏が言う男女の交わりを表現しているとか、集団墓あるいは再生を願うレトリック(誇張表現)だろう等との多くの説があります。確かな答えはまだ出ていないようです。勿論私のような石を追うだけの部外者には、縄文人の意図を探求する知識等ありません。

そこで多くの考古学者や知識人の



秋田の大湯遺跡 男女の交わりと言われればそうとも見える単に墓石とも見える



7200石を運んだ大湯の縄文人達には生活に盛り込まれた当然のことなのか



八ヶ岳、富士、甲斐駒ヶ岳を望む山梨金生遺跡 住居と墓と祈りの場が一体



移設復元された向原遺跡の配石遺構 石達は何かに取り付かれて踊る 井戸尻

様々な説の中で、私が印象に残った考古学者能登健氏の「列島の考古学・縄文時代」の一説を紹介します。

「環状列石を発掘すると、遺物が大量に出土することがいとも気にかかると(中略)神聖な場であるはずの環状列石の内部に生活雑廃物が捨てられている。(中略)命の終わった遺体も、使用が終わった生活用具も、そして生をつないだ食料の残滓も、感謝の念を込めて送るといふ祈りの場が、神聖な列石の中にあつたと考えると、すべての思考回路が再び正常に動きだす。縄文世界では、人間社会の生活に供したすべてのものが、等質的に送りの対象であつたのである。」この能登氏の見解は、多くの可能性の中の一つと私は

思っています。

唯石を追う者としてはつきり言えることは、日本庭園の源流とされる4世紀後半の、城之越庭園遺構の遙か2千年以上も前に、本来は横たわっている石を特別な意図を持ち、これを立たせた人々が縄文時代の列島に居たということです。